

令和 3 年度墨田区立文花中学校経営 (学校運営連絡協議会委員評価入り)

令和 4 年 3 月 5 日

<p>学 校 目 標</p>	<p>『チーム文花中として、文武両道を目指し 自分に誇りの持てる生徒、生徒の誇れる学校』づくり</p>
<p>目指す学校像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「わかる」「楽しい」「できる」が実感でき、生徒の自主的な学習意欲を育む学校 ・ チーム文花中として学校・家庭・地域が一つになって共に歩む学校 ・ I C T 機器や一人一台のタブレットを効果的に活用した ICT 教育を推進する学校 ・ 夜間学級との交流等、人権尊重、異文化理解を積極的に推進する学校
<p>目指す生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日の授業を大切にし、自ら計画し、進んで学びに向かう生徒 ・ 人権を尊重し、互いに協力しあい、自他を大切にする生徒 ・ 規範意識を身に付け、責任を果たし、社会に貢献できる生徒 ・ 文武両道の精神を持ち、心身共に健康で何事にも粘り強く取り組む生徒
<p>目指す教師像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常に教える「プロ」として、授業力・生徒理解力・危機管理能力等、自らの資質・能力の向上に努める。 ・ ICT を活用した授業研究等、生徒の意欲・関心を引きだし、今年度からの新学習指導要領に向けた校内研修を計画・実践する。 ・ キャリアプランによる計画的な研修への参加を推進する。 ・ 公務員としての服務を守り、尊敬される教職員を目指す。(率先垂範) ・ 働き方改革を視野に入れ、組織で効率よく仕事を行うように努める。

・ 達成状況は、経営計画の成果指標等を基準として 4 段階で評価する。

- A 高いレベルで達成できた
- B 達成できた
- C 達成が不十分だった
- D 達成できなかった

・ 改善策の評価基準として 4 段階で評価する

- A 大いに期待できる
- B 評価できる
- C もう一歩、改善を求める
- D 改善策が不十分

・ 学校関係者評価委員会の意見等

ご意見を文章で記入してください。

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	取組の評価	改善策の評価
各教科等指導	確かな学力を育てるための、分かりやすい授業の実施等	B	<p>○研協力校 1 年目の研究主題は、「学びに向かう力の育成」と定めた。その実践として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ i-check の分析を年 2 回行う ・ 学級活動で日直による発表活動（相手の尊重） ・ 各種コンテストの事前取組の工夫 ・ 「分かる」授業実践集に基づく教員相互での授業観察 ・ 学習指導案の中に自己肯定感を高める視点を意図的計画的に行う <p>という取組を、来年度も継続していく。</p> <p>○タブレットを活用した授業実践が増えてミライシードを利用した家庭学習やロイロノートでの課題提出が日常的に行えるようになった。</p> <p>○ロイロノート教員研修を実施。やむを得ず学校に登校できなかった生徒支援をオンライン学習で行う。</p> <p>○基礎学力コンテストの合格率が、各学年上昇した。2 学年の国語の合格率 100%、数学も 92%であった。</p> <p>○生徒アンケート結果「授業に意欲的に参加している」に肯定的な回答が 88%で学習意欲が高まっている。基礎でつまづいている生徒には、今年度同様、放課後学習教室や補習教室を実施。</p> <p>○各種検定の受検や事前学習会の参加を促す。</p>	B	B
	特別な支援を必要とする生徒に対しての、組織的な支援等	B	<p>○巡回心理士に授業観察をお願いして、支援の必要な生徒への指導上の配慮、適切な声かけの方法を学んでいく。</p> <p>○特別支援校内委員会を年間 5 回以上実施し、常に新しい指導目標を立て、解決策を話し合っている。</p>	B	B
	社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等	B	<p>○コロナの影響で、職場体験の実施は中止となった。しかし、各学年の代替授業として、キャリア教育の一環である職業講話会や、マナー講習会、上級学校調べ、職業調べなどが実践でき、将来の夢の実現に繋がる取組となった。</p>	B	B
	教員の指導力・授業力を高めるための、組織的な取組等	B	<p>○校内研修は予定通り実施。来年度も 2 週間の授業観察期間を年間 3 回実施し、お互いの授業を見合い、模倣できるところや改善点などを話し合う。</p> <p>○教員 13 名のうち若手教員 6 名を中心に、都内の指導教諭における授業見学会に積極的に参加した。OJT 報告も意欲的に行い、授業改善に繋げている。</p>	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等		<ul style="list-style-type: none"> ・ 例年に比べると劇的に人間性を育む為の教育ができないコロナ禍ではあるが、工夫をして最低限経験する時間を作っているように伺えた。 ・ コロナ禍で大変な中、よくやっただいている。 ・ 改善策とは一般的に達成状況を鑑みて今後どうするかを記載するものと理解している。しかしながら、改善策には「達成した数値結果」等「過去形」が目立つ。「～したい」「～に務めたい」などが改善策の文言にふさわしいと感じる。 ・ 目指す学校像にも、生徒像にも「人権尊重」が挙げられているが改善策に見当たらない。 		

		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても学力向上が図られたとのことで校長を筆頭に先生方のご尽力に頭が下がります。評価が B なのは何故でしょうか。A としたら改善策が書けないからでしょうか。A でいいのでは。 ・生徒意識調査で 2 番目は肯定的な見方が前年度より若干減っていますが、改善策は示されていない。 ・特別な支援に関して前年度は巡回心理士などとの連携は概ね達成できたとなっている。今年度の改善策は方法を学んでいくとなっているが、今年度は達成できなかったのでしょうか。 ・各種検定の必要性を生徒本人がわからず、家庭でも把握できておらず、3 年生になってから慌てている。1 年生の頃から計画的にとれるよう、計画表等に沿って生徒に指導していただけるとありがたい。 			
<p>生活指導等</p>	<p>問題行動の予防や解決に向けた組織的な取組等</p>	<p>B</p>	<p>○毎月いじめに関するアンケートをとり、早期発見早期対応を心がけている。 ○年間を通して、落ち着いた学校生活を保っている。生徒の規範意識の高さや、生徒アンケート「文花中はいじめのない学校だ」の質問に対して、93%の生徒が肯定的な回答であり、引き続き根絶を目指していく。</p>	<p>B</p>	<p>B</p>
	<p>基本的な生活・社会習慣、人間関係作りのための心の教育等</p>	<p>B</p>	<p>○校則について、年度当初から見直しをはかっており、生徒、保護者の意見をとりいれ改善している。 ○学校支援員の個別指導や特別支援専門員らの声かけ、スクールカウンセラーとの相談などが効果を現し、昨年まで別室登校や不登校の状況だった生徒が、教室または別室に復帰できるようになった（5名）。完全不登校の生徒の2名へも、様々な方向からアプローチしている。</p>	<p>B</p>	<p>B</p>
	<p>安全を確保するための取組等</p>	<p>B</p>	<p>○計画したものはすべて実施できた。 ○感染防止策として、マスクをはずす場面を最小限に教育活動を行った。給食や話し合い活動は、シールドを活用したり、クラスを分散したりするなどの対策が徹底されていたため、学校内での濃厚接触者発生は回避できて、長期の学級閉鎖になることはなかった。</p>	<p>B</p>	<p>B</p>
	<p>学校関係者評価委員会の意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナによってコミュニケーションを取る事が難しく、いじめやヤングケアラ、不登校などの問題を見えにくくなる場所を見える形にする努力が見られる。 ・安全確保がきちんできていて安心。 ・「いじめ」も「不登校」もきちんと学校管理下にあるとのことで日常のご指導の賜です。評価は A にすべきです。 ・生徒意識調査 9 番、10 番は肯定的な見方が減少しています。改善策はありませんか。 ・不登校になると、勉強がまったく出来ない状態になり、勉強についていけないと学校に行きたくなるという悪循環。不登校生徒にもオンライン授業や、好きな時間に学べるような動画等があるといい。 			

学校 の 管理 運営	経営方針に基づいた、 組織的な教育活動・学 校運営等	B	<p>○企画会、運営委員会、職員会議の手順で立案したものが吟味され、効率的に行われている。</p> <p>○コロナ禍における企画は、できる範囲で、職業講話会、マナー教室、がん教育、高校の先生による上級学校教育などを実施、または、オンライン中継による外部講師の授業を実施している。</p> <p>○今年度、サッカー部を開設し、どの部活も限られた時間を精一杯活動している。卓球部、陸上部、ソフトテニス部などは都大会出場権を獲得するなど、地道に成果を出している。</p>	B	B
	生徒の実態に合わせ た教育目標設定及び 評価等	B	<p>○生徒アンケート、保護者アンケート、生徒の i-check の分析などをもとに、各方面の声や要望を受け取り、よりよい学校づくりに取り入れる。</p> <p>○都立推薦入試合格率が 51.7% と素晴らしい結果であった。自分の夢の実現のために、どんな努力が必要か、多方面からの問いかけが実った。</p>	B	B
	教育環境・設備等の整 備状況等	B	<p>○ICT を様々な場面で活用することが増えている。授業の配信などを通してコロナウイルス感染において登校できない生徒への授業支援を、教室以外で行う特別室においても可能なようにしていく。</p> <p>○保護者アンケートの「環境整備」に関する回答は、96%の方が肯定的回答であった。生徒の美化意識は高く、日頃よりしっかりと清掃活動を行っている。また、スクールサポートスタッフの協力で掲示物の工夫を行い、環境整備に努めている。</p>	B	B
	学校関係者評価委員 会の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインなどを使って様々な話を聞く機会もあり、生徒に体感する機会をもうけていると思う。 ・生徒の実態に沿った管理・運営ができていると思う。 ・ICT化を推進するには経費と経験が必要だが、せめて運営委員会の会合案内などから電子メールで済ませるようにすべき。 ・保護者アンケート 6 番、11 番の肯定的な見方が減少していますので、改善策は必要。 			
家庭 ・ 地域 連携	教育方針や日常の教 育活動の様子などを 伝える取組等	B	<p>○学年便りの発行が不定期で滞った学年があった。教員の数が減少したことに加え、進路指導などの日々の対応に追われたことの要因が大きい。学校支援員やスクールサポートスタッフをより一層活用し、教育活動の充実に繋げるように努める。</p> <p>○学校情報連絡ツール C O C O O の家庭の導入率は現在 98% になり、出欠連絡、緊急時の連絡確認、各種アンケート、お知らせ等に活用している。</p>	B	B
	保護者や地域の理解 や協力を得た教育活 動の推進等	B	<p>○コロナ禍で予定通りの活動ができない部分もあったが、生徒会主催で地域清掃を行い、全校生徒の 3 割近くが積極的に参加している。地域貢献の気持ちを育ませるよい機会となっている。</p> <p>○ふれあい祭りが感染状況により、様々に形を変えて計画された。直接的にふれあう機会は減少したが、生徒の意見として、「文花中は地域に見守られている。」という意識が高く、生活環境の健やかな心の支えとなっている。</p>	B	B

<p>学校関係者評価委員会の意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の評価を見ても、おおむね評価を得る事ができていると思う。 ・この2年間、子ども達の学校生活も新型コロナ感染防止の為、様々な制限が課せられています。行事・生徒達の活動・交流。又、それは子ども同士の会話・遊びにも及んでいます。そんな中、今回の「令和3年度生徒意識調査」と「令和3年度保護者アンケート結果」に目を通し、ほとんどの結果が肯定的な見方が多かった事に安堵しました。このパンデミックの体験は、彼らが未来を生きる糧となることでしょう。私達の未来も明るく見えます。先生皆様方のご指導に感謝の一言です。 ・今後も地域との更なる連携を期待する。 ・「学校の常識は世間の非常識」と評される学校の「硬直性」を反省するところから運営会議が誕生しました。学校側の教育のプロを自任する向きからは煙たい存在ですが、「聞く力」を鍛えていくことが教員としての力量アップ、つまり教員研修にもなると存じます。御理解とご健闘を祈ります。 ・前年度、ただ一つのA評価が無くなったのはさみしいです。 ・地域等との連携がA評価にならないのはなぜでしょうか。昨年度の子どもの夢支援に生徒の応募が少なかったように、教員の地域等への理解度が低くなったのも一因と思う。 ・小学校ではお便りを子供のタブレットに配信しているので、カバンの中でぐちゃぐちゃになることがなく、渡し忘れが少ないように思う。また印刷する手間も省けるのではないかな。
-----------------------	---

2 令和3年度学校評価のまとめ

○「学習状況調査結果に学力の向上が多く教科で見られ、日頃の成果が現れていると言える。」というご意見を多数いただいた。「学びに向かう力の育成」として、研修会で教職員が目的意識をもち、共通意識のもと、授業改善につなげていく。

○経営目標である「文武両道の学校」の実現として、各方面での生徒の活躍がみられ、日々の学習や部活動などの指導が成果に結びついている。

○生徒・保護者のアンケート結果で、行事に関する評価、PTA活動や地域への参加に対する数値が低くなっているのはコロナ禍の影響と捉えられる。しかし、学校生活の様々な場面で感染対策を万全にして、できることを工夫しながら行う様子がたくさんみられ、安堵したという肯定的なご意見を多数いただいた。

○生徒のタブレット端末を活用した授業展開が多く行われるようになり、ICT化が加速している。教員ひとりひとりが、さらなる授業力の向上を目指していく。

以上のとおり、報告いたします。

墨田区立文花中学校 校長 稲垣 吉実